

東大病院だより

表題：海野濤山書

No. 59



安田講堂屋上から晩秋の東大病院を望む

CONTENTS

- ◆医学歴史ミュージアムの紹介 (7)
 - 福島県浅川町立「古田富三記念館」— ……(加我) ……2
- ◆東京大学ホームカミングデイの開催について
 - 病院コースの紹介— ……4
- ◆“東大病院看護師宿舎のピアノ記事が契機となる”
岐阜県中津川市立落合中学校における
「幻のスタインベルグのピアノ」修復について ……5
- ◆東大病院創立150周年に向けて シリーズ第17回
 - (1) 東京大学看護教育120周年、
最初の英国人教師アグネス・ヴェッチ ……6
 - (2) —松本良順没後100周年— ……(加我) ……7
- ◆東大病院から世界へ発信
 - 新しい病気の発見、原因の解明、診断機器・治療剤の開発— (3)
 - 6. 泌尿器科 ……(北村) ……8
 - 7. 腎臓・内分泌内科 ……(藤田) ……9
- ◆～病院内でも携帯電話が使用できるようになりました～ ……10
- ◆「食事療法展」10年のあゆみ ……(大谷) ……12
- ◆クリスマス・イルミネーションの点灯について ……13
- ◆東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業
ホームページの開設について ……14
- ◆出来事 (9月から10月) ……15
- ◆東大病院の四季 (秋の彩り) ……16

医学歴史ミュージアムの紹介（7）

— 福島県浅川町立 “吉田富三記念館” —



吉田富三先生生誕100年記念
事業委員会パンフレットより

吉田富三は、わが国の生んだ偉大な病理学者の一人である。福島県浅川町で造り酒屋の家に明治36年（1903年）に生まれた。大正12年（1923年）東京帝国大学医学部医学科に入学、昭和2年（1927年）、卒業と同時に病理学教室に入った。主任教授は肝硬変の分類と傑出人の脳の研究で知られる長興又郎、指導教授は緒方知三郎であった。昭和4年（1929年）、お茶の水の杏雲堂病院院長でバターイエロー他による人工癌の研究者であった佐々木隆興の佐々木研究所で有機砒素化合物による癌を作る研究を始めた。昭和7年（1932年）、アゾ化合物によるラット肝臓癌を作ることに成功した。これは世界で初めて化学物質による実験的臓癌の発生の成功であった。ナチスが台頭したドイツのベルリン大学の病理学教室（レスレ教授）に昭和10年（1935年）から2年間留学した。留学中、帝国学士院恩賜賞を受賞した。昭和13年（1938年）、長崎医科大学の病理学の教授として就任した。昭和18年（1943年）、アゾ色素投与中のラットに腹水腫瘍を発見した。この腫瘍は移植可能で

後に“吉田肉腫”と呼ばれるようになった。

東大医学部の標本室（本館3階）には、山極勝三郎のウサギの耳の人工癌、佐々木隆興のバターイエローによる内臓癌と並んで、吉田肉腫の標本が展示されている。

昭和19年（1944年）、長崎に原爆が投下される1年前に東北帝国大学の病理学の教授に任命され仙台へ吉田肉腫のラットを移動させた。昭和27年（1952年）、吉田肉腫により朝日賞を受賞。この年、東京大学の病理学の教授に任命された。

東北大学の最終講義「作業仮説と実験」は歴史に残るもので出席者に大きな感銘を与えた。

昭和27年（1952年）～38年（1963年）の11年間という短いものであったが、東京大学医学部教授としての吉田富三の国内外での活躍は癌研究だけに限らずめざましいものであった。それまでの吉田肉腫の研究で、文化勲章を受章する他、海外からも表彰が続いた。癌の化学療法国際会議を多数主催した。医学教育面では昭和33年（1958年）医学部長に就任すると東大入試抽選論を発表した。日本学術会議会員も長く勤め、その発展に貢献した。

ユニークな仕事として国語審議会委員として活躍したことがある。『国語の表記は漢字仮名まじり文を正則とする』ことを提案し、これを機に明治以来の日本語簡素化、漢字全廃論などに終止符が打たれたという。もともと文才があり、その才能が医学以外にも発揮された。



吉田富三記念館の案内表示



吉田富三記念館の全体像



愛用した顕微鏡と実験道具



机は東京大学医学部病理学教室のもので山極勝三郎、長興又郎、岡治道、吉田富三と歴代の教授が使ってきたものである。



記念館庭の白ネズミの碑



吉田富三賞の受賞者の写真



現在の記念館館長 内田宗寿氏

退官後は特に医療や医学教育の変革のために活躍を続けた。

昭和39年（1963年）、日本医師会会長選挙に「医師のあるべき姿、理想を示す」として出馬したが、それまで会長を続けてきた武見太郎に敗れた。昭和41年（1966年）、文部省癌特別研究（がん特）を組織し「見えざる研究所」構想のもと、全国のがん研究者を結集し、現在に至るまで大きな成果をあげるきっかけを作った。昭和45年（1970年）、医学教育改革のための提案6条、医療保険制度の根本的改革に関する提案を発表した。

昭和48年（1973年）、若き日に研究に取り組んだ佐々木研究所の付属病院である杏雲堂病院にて逝去。

駆け足で吉田富三の足跡を振り返ったが、常に大きな構想で癌研究に医学教育に医療制度の改革にリーダーシップをとった偉大な医学者であった。その功績が浅川町の吉田記念館の展示と活動で永く伝えられるというのは大いに敬意を表すべきことである。

館長の内田宗寿氏に吉田富三記念館設立の経緯をうかがった。

「吉田富三記念館は平成5年（1993年）10月1日の開館で、今年で14年目を迎えます。財政的な基盤は平成2年（1990年）竹下登内閣の「ふるさと創生基金」の援助1億円にあります。浅川町ではこれを原資にふるさとの生んだ偉大な病理学者、吉田富三先生の記念館を設立することになったのです。土地が1億円、建物に4億3000万円、展示の計画はNHKエンタープライズに依頼し7000万円かかりました。合計6億円がかかりました。これまで5000人の入館者があります。記念館の活動として、顕彰事業として日本癌学会と共同で癌の基礎研究に対して吉田富三賞を贈り、今年で16回になります。毎年1人を選んでもらい、100万円を副賞としてお渡ししております。東京大学関係では第1回の受賞者が杉村隆先生、最近では東大医科研の中村祐輔教授と澁谷正史教授が受賞しております。吉田先生は医学研究者だけではなく教育者であり、かつ国語審議会の委員で言葉に深い関心を持つ文化人でもありました。

「行不由徑」

行くに徑（こみち）に由（よ）らず

論語 雍也第六

「子游為武城宰。子曰、女得人焉爾乎。」

日、有澹台滅明者。行不由徑。非公事、

未嘗至於偃之室也。」

意味

堂々と大道を行くのがよく、徑を選ばないほうがよい。事を行うには正攻法がよく。

小細工をしないほうがよい。

これは、孔子が弟子の子游に、あなたは武城の宰相になったが、部下の中によい人物がいるのか、聞いたとき、子游が、「有澹台滅明者。行不由徑。非公事、未嘗至於偃之室也。」と答えたものである。

吉田富三が好んだ言葉

『増殖し始めると、どこまででも

増殖が続いていくというのが、

このガンの増殖であります。

そこには何か、生物の世界の細胞が

生きているという

その生物の世界のいろいろな秘密が

見えたり、かくれたりしているような

感じを研究者におこさせるのでありまして

研究としては、ガンというのは

大変おもしろいものであります。』

講演「少数派について」（1969年）より吉田富三の肉声です。

福島県を16地区に分け、小学校の生徒を対象に理科の研究を募集し「吉田富三こども科学省」を贈っています。9000点の応募があります。「詩を書こうコンクール」も昨年からは始めました。昨年は1500編、今年は1700編の応募がありました。

記念館設立後、単に展示だけでなく、吉田富三先生の活躍に沿うように毎年専門家に対する賞だけでなく、小学生の教育のために理科と詩の賞まで出すことで、活性化に取り組んでいることは個人ミュージアムの運営のあり方を考えるうえで大いに参考になる。さらに記念館を中心として健康教室講演会や健康相談も実施し地域の人々の健康意識の増進につとめているとのことであった。

美しい自然に囲まれた福島県浅川町の高台にあるこの記念館の訪問を是非おすすめしたい。

（加我 君孝）

吉田富三記念館：福島県石川郡浅川町大字袖山字森下287番地

TEL：0247-36-4129

FAX：0247-36-4807

URL：http://www.tomizo.or.jp/

東京大学ホームカミングデイの開催について

－ 病院コースの紹介 －

11月10日（土）、東京大学の歴史を振り返る「創立130周年記念イベント」並びに本学の卒業生が旧友との絆を深めるための「ホームカミングデイ」が同時開催された。

本院では、医学部のイベントとして附属病院の見学会が医学部卒業生等のご家族を含む参加者（本年参加者16名）により毎年執り行われ病院の紹介を行っている。

また、来年5月9日（金）には、医学部・附属病院の創立150周年記念事業を目前に控えていることから参加者へ創立記念事業のご案内を行い、14：20から本院の見学会が開始された。見学会は、最初に武谷雄二病院長から参加者へホームカミングデイへの参加の謝辞と本院が社会に果たしてきた役割等について挨拶が述べられ、榎山 博副院長・事務部長からは「ようこそ東大病院へ」というテーマで本院の概要説明が行われ、佐々木順三医事課長から外来診療棟

の概要説明が行われた。

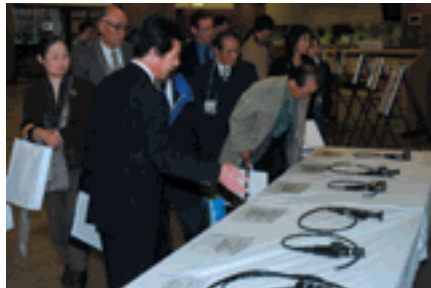
外来・診療棟ホールには、昭和27年（1952）に東大分院外科の宇治達郎医師と当時のオリンパス光学研究陣が協力して完成された胃カメラGT-1開発の紹介パネルと実際に分院で臨床の場で使用され、現在本院で保存されている胃カメラ・ファイバースコープ（オリンパス社製）6機種の展示と本院の歴史写真のパネル展示が行われた。

見学会は、平成18年に竣工した中央診療棟2の光学医療診療部、救急部、リハビリテーション部及び放射線部の放射線治療施設を見学し、現場の担当者から最新の医療機器と診療施設について説明が行われた。

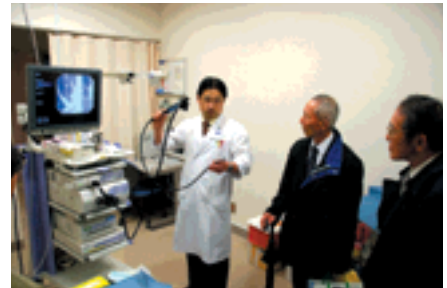
参加者には、本院オリジナルの絵葉書と病院紹介のDVDが配布され、見学会は好評の内に16：00過ぎに終了した。



武谷病院長挨拶



胃カメラ・ファイバースコープ
（オリンパス社製）6機種の展示の様子



光学医療診療部見学の様子



救急部見学の様子



リハビリテーション部見学の様子



放射線部見学の様子

“東大病院看護師宿舎のピアノ記事が契機となる”

岐阜県中津川市立落合中学校における 「幻のスタインベルグ社製ピアノ」修復について

東大病院だよりでは、昨年の秋に発行されたNo.55（平成18年11月30日発行）に東大病院の遺産シリーズ9として、本院の看護師宿舎に置かれている「作曲家・山田耕筰より寄贈されたドイツ製スタインベルグ社製ピアノ」の由来及び山田耕筰と本院の関わり等について、紹介した。

今般、この記事をご覧いただいた岐阜県落合中学校の上田さよ教諭から、東大病院だより編集担当へ落合中学校に大切に保存され60年以上現役で活躍してきたスタインベルグ社製アップライトピアノ（日本での所在が判明しているのは、本院と落合中学校の2台しかなく、製造期間も30年余りと短く幻のピアノと呼ばれている。）が「中津川市の文化遺産」として製造時の音色と姿に修復されることが伝えられた。関係機関への修復の要請にあたっては、東大病院だよりの掲載記事が大きな説得力を持たせてくれたとのことであ

る。この知らせは大変喜ばしいことであり、大切な文化遺産の修復に関わる関係者の温かい心持が伝わった。このピアノの修復は半年の月日と100万円近くの修復費がかかるということで、来春には修復された幻のピアノの音色が蘇るとのことである。



岐阜県落合中学校のスタインベルグ社製アップライトピアノ



本院のスタインベルグ社製アップライトピアノ



ピアノ修復の動きを伝える新聞記事
岐阜新聞社提供（平成19年9月21日朝刊）

本院のピアノもいつの日か「東京大学の文化遺産」として修復の動きが起こることを期待し、本号に紹介記事を掲載する。

東大病院創立150周年に向けて

シリーズ第17回 (1) 東京大学看護教育120周年、最初の英国人教師アグネス・ヴェッチ



アグネス・ヴェッチ
写真 平尾真智子氏より

今年の秋は、お雇外国人アグネス・ヴェッチ女史が、明治20年（1887年）10月27日看病婦の教員として通訳の鈴木まさを伴い、本学における最初の近代看護教育を開始してから丁度120年目を迎えた。

明治19年（1886年）、東京帝国大学医科大学宇野 朗 医院長（明治19年3月19日～明治25年1月31日、明治26年9月11日～明治30年4月21日）は、病院の改革に関する問題点を問い、その中で病院の古く狭い建物に増え続ける外来患者の対応が困難なこと、入院患者に対しては家族の

付き添いで支えられていた現状を改善し、解決するための一つの改革として病院で働く看護婦の増員と質の向上に取り組み、明治20年（1887年）看病婦見習規則等を制定し、今回紹介するアグネス・ヴェッチ女史を招請した。

アグネス・ヴェッチ女史は、1842年にスコットランドで生れ育ち、ナイチンゲールシステムを導入したエディンバラ王立貧窮病院附属看護学校（The Royal Infirmary Edinburgh School of Nursing）に第1回の訓練生として30歳で入学し訓練を受けた。その後、明治20年（1887年）9月、外国人旅行者として45歳で来日し、桜井女学校付属看護婦養成所で生理、解剖、看護法、英語、調理実習などの講義を行った後、同年10月27日から明治21年（1888年）9月26日までの1年間、当時の東京帝国大学医科大学附属第一医院で看護教育の講義を行った。そこでの

「看護法講義及看病術実施練習」に、上記桜井女学校で講義を受けた6名の生徒を実習委託生として受け入れ、我が国における官立の近代看護教育が始まった。これが東京大学医学部附属看護学校（平成14年（2002年）3月31日閉校）の始まりであり、その後同校は114年の間、多くの優秀な人材を輩出し、わが国の看護教育を支えてきた。

アグネス・ヴェッチ女史は、1年間という短い期間でありながらその優れた人柄により当時の生徒に多大な影響を与えた。同女史は、来日して1年後の明治21年（1888年）11月に日本を去り、昭和17年（1942年）100歳でその生涯を閉じた。



英国人教師アグネス・ヴェッチと通訳の鈴木まさ

【参考】

1. 看護のあゆみ—明治・大正・昭和を通して— 東京大学医学部附属病院看護部
2. 看護教育百八年のあゆみ 東京大学医学部附属看護学校
3. 閉校によせて—2002年3月— 東京大学医学部附属看護学校閉校記念誌
4. 資料 御雇外国人 ユネスコ東アジア文化研究センター編、小学館発行
5. 資料にみる日本看護教育史 平尾真智子著 看護の科学社発行

(2) - 松本良順没後100周年 -



松本良順 (1832-1907)

東大医学部ゆかりの松本良順没後100周年の法要がお墓のある神奈川県大磯の乗勝山妙大寺で去る3月11日に営まれた。施主は良順から4代目である松本和彦先生（東大耳鼻咽喉学教室の同窓で豊島区で開業）である。親族、順天堂大学関係者と、東大病院からは筆者が参加した。大磯町では、大磯を海水浴場として推薦し、晩年を大磯で過ご

した松本良順没後100年を記念して、海開きと、郷土資料館で記念展が7月3日～9月2日の間開催され、ゆかりの品やその功績をたたえる展示が行われた。

松本良順は、東京大学の医学部の前身、神田お玉ヶ池種痘所が西洋医学所と名を変えてから、3代目の頭取であった。初代は大槻俊斉、2代目は大阪の適塾から招かれたが6か月で急死した緒方洪庵である。松本良順は幕末から明治時代の激動の時代を生きた大物である。松本良順は蘭学医佐藤泰然の次男として生まれた。父泰然は良順が3歳の時に長崎に3年間国内留学し、江戸に戻ってから外科医として開業し活躍した。その後、佐倉藩に移り、佐倉に私塾“順天堂”を開いた。これは現在も佐倉市の名所旧跡として保存され、記念館として一般向けに開館している。

幕府の医官となった松本良順は安政4年（1857年）、長崎海軍伝習所でオランダの海軍医であるポンペより5年間にわたって我が国で初めての西洋医学を系統的に初めて基礎医学と臨床医学の教育を受けた。すぐに頭取に抜擢された。この時のノートの一部が医学図書館の資料室に保存されている。江戸に戻ってからは西洋医学所で、ポンペから受けた教育を実施した。しかし、幕末の激動の時に幕府の医官として、新撰組の世話をしたり、将軍家茂の治療に参加したり、最後の将軍慶喜の侍医となって活躍した。明治元年の戊辰戦争では幕府軍と一緒に行動を共にし、負傷者の治療にあたった。この時官軍側の負傷者の治療にあたったのが東大病院の前身の大病院の院長となった英国人ウィリスである。戊辰戦争では幕府軍は敗走し、仙台湾にたどりついた。土方歳三より、松本良順は「自分達には剣しかない、これから函館に船で行くが、先生は医者なので江戸へ戻り患者を助けるべきだ」と諭された。船で横浜に戻ったが朝敵として逮捕され、加賀屋敷すなわち現在の東大の地に約1年にわたって幽閉された。

明治3年解放され早稲田に開業した。翌年、陸軍の大物山縣有朋が訪ねて来て、明治政府への協力を求められ、衛生部の設置に尽力した。明治5年陸軍省が誕生すると翌年に陸軍軍医総監となり6年間リーダーシップをとった。明治23年貴族院議員、38年には男

爵を授けられた。なお、森林太郎（鷗外）が陸軍軍医総監として勤務したのは明治40年から大正元年までである。

(加我 君孝)

参考書：松本良順自伝・長与専斉自伝 東洋文庫386 平凡社 1980



松本良順100周年忌謝恩法要 乗勝山妙大寺（大磯）



乗勝山妙大寺にある松本良順のお墓



軍医総監の松本良順を模した人形

東大病院から世界へ発信

—新しい病気の発見、原因の解明、診断機器・治療剤の開発— (3)

6. 泌尿器科

北村 唯一

泌尿器科は昭和2年7月に高橋 明教授が初代教授として開講した。その後、約20年間は皮膚泌尿器科として皮膚科と1教室2講座で活動していた。昭和21年5月1日に第2代教授市川篤二先生が皮膚科から独立し、単独講座を開いた。東大の中では比較的若い講座であり、他の講座に比べて嚇々たる成果を挙げたとは言えないが、2~3の代表的な業績を紹介する。

1) 大動脈造影法の開発

市川篤二は昭和2年東大医学部を卒業し、すぐに皮膚泌尿器科教室に入局した。昭和20年12月7日に東大泌尿器科教授となった。彼は、それまで行われていた背部から直接大動脈を穿刺し造影するトスサントス法に代わって、大腿動脈から尿管カテーテルを挿入し造影剤を注入し大動脈造影を行う画期的な方法を開発した。これにより腎動脈が描出され腎細胞癌などの診断が容易になった。しかし、その後、Seldingerによりもっと簡便な大腿動脈穿刺法が開発され、それに取って替わられた。

参考文献 Zeitschrift für Urologie, 32: 563-564, 1938

2) プレオマイシンの開発と臨床応用

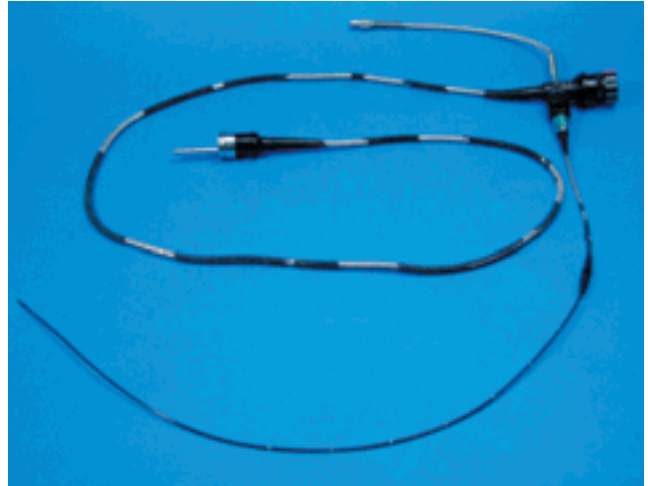
市川篤二は薬学部の梅沢浜夫とともにプレオマイシンの開発と臨床応用に従事した。市川篤二は梅沢浜夫が発明したプレオマイシンを逸早く陰茎扁平上皮癌に応用し、素晴らしい成果を挙げた。市川篤二によりプレオマイシンが扁平上皮癌に著効を示すことが明らかとなり、その後、他の扁平上皮癌にも応用され多数の患者に恩恵を与えることになった。現在でも精巣癌の化学療法のレジメンとして貴重な薬剤である。

3) 本邦初の生体腎移植成功

高安久雄は昭和16年に東大医学部を卒業しすぐに泌尿器科教室に入局した。戦時中であり進入医局員は全く入らず、永い下積み生活を送ったが、昭和38年4月1日に東大教授となった。すぐに腎移植の研究を開始し、昭和41年7月19日に本態性腎出血患者から腎摘した腎臓を腎不全患者に移植し、本邦で初めて長期生着に成功した。その後も腎移植を続け、東大泌尿器科で10例の移植を行った。

4) 腎盂尿管鏡の開発と臨床応用

高安久雄と阿曾佳郎はオリンパス社と共同で腎盂尿管鏡を開発し、世界で初めて臨床応用に成功した。阿曾佳郎は昭和32年に東大医学部を卒業しすぐに泌尿器科教室に入局した。阿曾佳郎は簡単に千切れるガラ



(図) 初期の腎盂尿管ファイバースコープ

ス・ファイバーと格闘し、執拗に尿管にファイバースコープ挿入を試み、遂に動画を撮ることに成功した。昭和46年5月、米国泌尿器科学会総会の招請講演において腎盂粘膜を動画で供覧し、聴衆の拍手喝采を浴びた。その後、腎盂尿管鏡はさらに発展し、誰もが簡便に使用できる器具となり、現在では尿管結石や腎盂結石の碎石、また腎盂、尿管の観察に汎く用いられている。図は初期の腎盂尿管ファイバースコープで、現在のもの(6.9F.)に較べてかなり太い。図の下方の鬚のように細長い部分が腎盂まで入るファイバースコープの部分である。

5) 純国産のタムスロシンの開発と臨床応用

河邊香月は昭和37年に東大医学部を卒業しすぐに泌尿器科教室に入局し、その後平成5年4月1日に東大教授となった。

入局初期には腎生理、とくに腎性高血圧(高血圧ラット)の研究をした。この高血圧研究の過程で、昭和55年頃から、αブロッカーを投与されたラットの異常排尿に気づき、前立腺肥大症の治療にαブロッカーを利用することを考えていた。たまたま、ニカルジピンの誘導体で血圧を降下させず、尿道圧のみを下げる薬物に遭遇し、この日本で開発された薬物(タムスロシン)の治験と基礎研究に取り組んだ。前立腺肥大症ではサブタイプAのmRNAが増加すること、タムスロシンは前立腺に多いα1レセプターサブタイプAに選択的に結合することを画像解析等で明らかにすると同時に、血圧を低下させることなく尿流量を増加させ、手術必要件数を如実に減少させる効果を検証した。この特長によって、本剤を前立腺肥大症治療薬として、世界のベストセラーにまで発展させた功績は偉大である。

7. 腎臓・内分泌内科

藤田 敏 郎

腎臓・内分泌内科は、東京大学医学部附属病院の内科再編に伴い、旧第1～4内科、および物療内科所属の、腎臓や内分泌専門の医師が参集した診療科である。旧内科時代の業績を網羅することは困難であり、以下には各分野からいくつかの例を列挙する。

1) 高血圧関連

昭和20年代から30年代には良い降圧薬が存在せず、水銀利尿薬などが使われたが十分な降圧は得られなかった。後に日本高血圧学会の創設と初代会長をつとめた金子好宏先生（昭和20年卒）がヘキサメソニウムを使用し、悪性高血圧の患者を治療したところたちどころに血圧が下がり、大変感謝されたと同った。

高血圧治療薬として画期的であったのは、サイアザイド系利尿薬の登場である。米国で最初の大規模臨床試験VA研究が行われ利尿薬の有効性が示されて以降、利尿薬は今日でも高血圧治療の第一選択薬としてわが国のみならず欧米のガイドラインにも入れられている。本邦では増山善明先生（昭和24年卒）らが中心となって東大を中心に治験が行われ、トリクロルメチアチドが1970年～1980年代に広く使用されるようになった。その際、第一、第二、第三内科の高血圧を研究する医師により、初めて高血圧の分類（三内科分類）が作成された。またその後20年にわたりこの分類に基づいて、多くの降圧薬の治験が行われた。更に1994年、新外来棟オープンにあたり、高血圧を専門とする有志が内科講座の枠を超え、協力して「高血圧診療マニュアル」（東大内科高血圧外来編 南江堂）を出版し、その後これが全国の施設で広く活用されてきた。

金子好宏先生らは両腎動脈からカテーテルで採血し、ヒトの腎からレニンが分泌されることを世界で初めて証明すると共に、腎血管性高血圧の病態を解明した。

Kaneko Y, et al: Renin release during acute reduction of arterial pressure in normotensive subjects and patients with renovascular hypertension. J Clin Invest 46: 705-716, 1967.

2) 腎臓関連

大島研三先生（昭和6年卒）の指導のもとで金子好宏先生（昭和20年卒）が尿素、クレアチニン、PAHなどを使用し、日本人の尿素クリアランス、糸球体濾過量（GFR）、腎血流量（RBF）を昭和20年代にはじめて測定した。今日慢性腎臓病（CKD）が心血管系疾患のリスクファクターとして注目され、腎機能により1期から5期にステージ分類されている。しかし、欧米人の腎機能の計算式やそれによるCKD分類は日本人には必ずしもあてはまらず、日本人の正確な腎機能の評価と分類が求められている。この点、大島先生、金子先生による日本人の腎クリアランスの評価は今日のCKD分類につながる、東大病院から発した先駆的な仕事であると考えられる。

クリアランス法による腎機能の研究.日新医学 38: 290-297, 1951.

蛋白尿を伴うIgA腎症は腎不全に至る例もあるが、ステロイドの効果については議論が分かれていた。野坂和男先生（昭和52年卒）らは、1990年台初頭より蛋白尿を伴うIgA腎症に対して「ステロイドパルス療法」を試み、蛋白尿改善や腎機能保持など一定の効果を確認し、その後の標準的治療法の確立につなげた。

Nosaka K, et al: Benefits of steroid pulse therapy in patients with IgA nephropathy. XVth International Congress of Nephrology, Buenos Aires, Argentina, p368, 1999

関常司講師（昭和57年卒）らは、本学小児科学教室と共同で、腎近位尿細管や眼組織などに発現しているナトリウム・重炭酸共輸送体NBC1の機能低下型変異により、「眼症状を伴う近位尿細管性アシドーシス（OMIM 604278）」が生じることを世界で初めて同定し、体液の酸・塩基平衡におけるNBC1輸送体の意義を明らかにした。

Igarashi T, et al: Mutations in SLC4A4 cause permanent isolated proximal renal tubular acidosis with ocular abnormalities. Nat Genet 23: 264-266, 1999.

3) 内分泌関連

鎮目和夫先生（昭和21年卒）らは、我が国およびアジア諸国で甲状腺機能亢進症に合併する周期性四肢麻痺の頻度が極めて高いこと、麻痺の発生機構にインスリンの異常分泌が深く関わっていることを初めて報告した。

Okinaka S, et al: The association of periodic paralysis and hyperthyroidism in Japan. J Clin Endocrinol Metab 12: 1454-1459, 1957.

Shishiba Y, et al: Elevated immunoreactive insulin concentration during spontaneous attacks in thyrotoxic periodic paralysis. Metabolism 4: 285-290, 1972.

成長ホルモンの分泌動態について、入江眞先生（昭和27年卒）らは成長ホルモンが睡眠時に上昇することをDaughadayらとは独立に発見し報告した。また末端肥大症の多数例において、TRHによりGHが奇異的に上昇する現象を発見し、GH分泌の病態生理を解明する端緒となった。また、入江先生はクレチン症の新生児診断に初めて濾紙血によるTSHのradioimmunoassay法を応用した。

Honda Y, et al: Growth hormone secretion during nocturnal sleep in normal subjects. J Clin Endocrinol Metab 29: 20-29, 1969.

Irie M, et al: Increase of serum growth hormone concentration following thyrotropin-releasing hormone injection in patients with acromegaly and gigantism, J Clin Endocrinol Metab 35: 97-100, 1972.

福本誠二（昭和57年卒）講師らは、低リン血症を特徴とする腫瘍性骨軟化症の惹起因子として、fibroblast growth factor（FGF）23をクローニングした。このFGF23は、生理的にも血中リン濃度を調節するホルモンとして作用すると提唱されるに至っている。

Urakawa I, et al: Klotho converts canonical FGF receptor into a specific receptor for FGF23. Nature 444: 770-774, 2006.

Fukumoto S, et al: FGF23 is a hormone regulating phosphate metabolism -Unique biological characteristics of FGF23-. Bone 40: 1190-1195, 2007.

～院内でも携帯電話が使用できるようになりました～




東大病院では、院内における携帯電話の使用について、医療機器に誤作動等の影響を及ぼすおそれがあることから、使用禁止としていましたが、携帯電話の医療機器への影響度調査を踏まえ、影響が無いと考えられる場所・区域については、平成19年10月22日より使用を許可することといたしました。

使用可能エリアにおいて携帯電話を使用される際には、周囲の方のご迷惑になることがないように、使用場所・マナーを守っていただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■携帯電話の使用にあたっての注意点

- ◆ 院内では、マナーモードに切り替えてください。
- ◆ ご使用は必ず使用可能エリアにてお願いします。
- ◆ 歩きながらのご使用はご遠慮ください。
- ◆ 大きな声での通話や写真撮影など、マナーに反する行為はご遠慮ください。
- ◆ 電波に影響のある医療機器を使用されている患者さまの周辺や、マナーに反する行為のあった場合には、指定場所であっても携帯電話の使用をご遠慮願う場合があります。

■使用可能エリア

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">携帯電話使用可能エリア</p>  <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・この場所では、通話とメールの使用が可能です。</p> <p>・通話の際は、音声に移動していただき、周の方の迷惑にならないようお願い致します。</p> <p>・歩きながらのご使用は、ご遠慮ください。</p> <p>・院内ではマナーモードに切り替えてください。</p> </div> <p style="font-size: small;">皆様のご理解とご協力をお願いします。</p> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">東京大学医学部附属病院 患者課</p> </div>	<div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>携帯電話での通話及びメール使用可能エリアには、左のポスターを掲示してあります。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> ① 外来棟 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来棟玄関付近の窓際 ・ 各フロアーのエスカレーター付近の窓際 ・ 地下サンクンガーデン、1階中庭テラス及びそれに面した廊下 ② 中央診療棟（Ⅰ・Ⅱ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 1階X線受付（13番）、救急・時間外受付（15番）前廊下の窓際 ・ 2階採血・採尿受付（23番）、生理検査受付（24番）の入院棟寄り廊下の窓際 ・ 6階検診部前廊下の窓際 ③ 入院棟 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1階中庭テラス及びそれに面した廊下、理髪店前廊下の窓際 ・ 各階1床室及び食堂（混雑時には使用しないようお願いいたします。） ・ 4階ICU待合室及び家族控室 ・ B棟各階エレベーター前
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #8bc34a; color: white; padding: 2px;">メール使用可能エリア （通話禁止）</p>  <div style="background-color: #8bc34a; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・中待合室での使用はおやめください。</p> <p>・メールをする際には、ダイヤルバック音をサイレントモードにしてください。</p> <p>・歩きながらのご使用は、ご遠慮ください。</p> <p>・院内ではマナーモードに切り替えてください。</p> </div> <p style="font-size: small;">皆様のご理解とご協力をお願いします。</p> <p style="font-size: x-small; text-align: right;">東京大学医学部附属病院 患者課</p> </div>	<div style="background-color: #8bc34a; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>携帯電話でのメール使用可能エリアには、左のポスターを掲示してあります。（通話は禁止）</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> ① 外来棟 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各階外待合室 ・ 外来待合ホール ② 入院棟 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1階中庭テラス前休憩所 ・ 1床室以外の病室 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>

<携帯電話の使用可能場所>

① 地階・1階

(通話及びメール使用可能場所)

【外来棟】

- ・ 外来棟玄関付近の窓際
- ・ 地下サンタンガーデン
- ・ 中庭テラス及びそれに面した廊下

【中央診療棟1-2】

- ・ X線受付(13番)前廊下の窓際
- ・ 救急・時間外受付(15番)前廊下の窓際

【入院棟A】

- ・ 中庭テラス及びそれに面した廊下
- ・ 理髪店前廊下の窓際

(メール使用のみ可能場所)

【外来棟】

- ・ 待合ホール
- ・ 外待合

【入院棟A】

- ・ 中庭テラス前休憩所

■の色を塗った部分は、通話及びメール使用可能場所です。

■の色を塗った部分は、メール使用のみ可能な場所です。



② 2階

(通話及びメール使用可能場所)

【外来棟】

- ・ エスカレーター付近の窓際

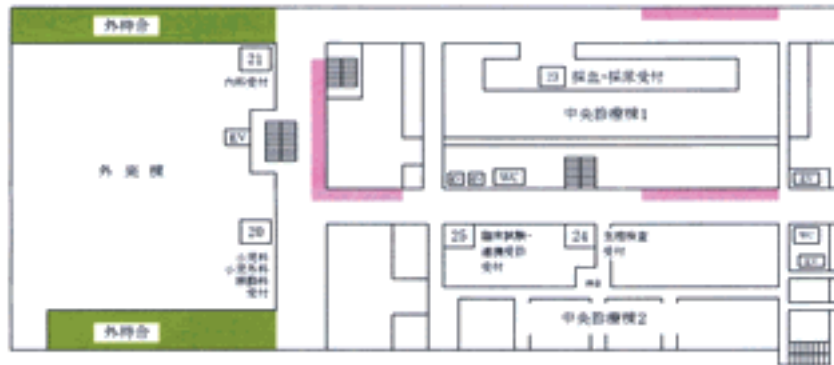
【中央診療棟1-2】

- ・ 採血・採尿受付(23番)の入院棟寄り廊下の窓際
- ・ 生理検査受付(24番)の入院棟寄り廊下の窓際

(メール使用のみ可能場所)

【外来棟】

- ・ 外待合



⑤ 入院棟での使用可能場所

【入院棟A】

- ・ 各階1床部屋 (ICU・PICU・GCUを除く)
- ・ 各階食堂 (4階については待合室及び家族控室)

【入院棟B】

- ・ 各階エレベーター前

※メールの使用につきましては、1床部屋以外の各部屋においても、使用可能です。ただし、病院側の判断により、ご使用を遠慮していただく場合がございますので、ご了承ください。

③ 3・4階

(通話及びメール使用可能場所)

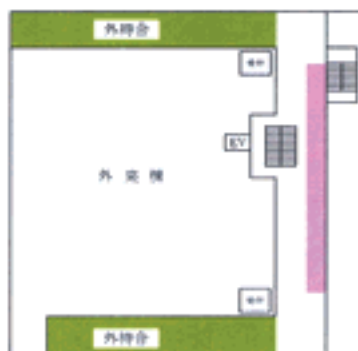
【外来棟】

- ・ エスカレーター付近の窓際

(メール使用のみ可能場所)

【外来棟】

- ・ 外待合

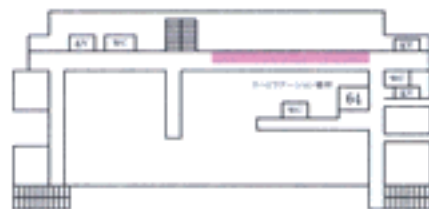


④ 6階

(通話及びメール使用可能場所)

【中央診療棟2】

- ・ 検査部前廊下の窓際



『食事療法展』10年のあゆみ

栄養管理室長 大谷 幸子

秋に恒例となった食事療法展も好評のうちに終え、季節も深まってきました。平成10年から開催してきたこの展示会も、お蔭様で10回を数えるようになりました。毎年同じように開催しているようですが、時々話題を取り上げ、来場者の知りたい健康と食に関する情報をタイムリーに提供出来るように、アイデアを出し合い趣向を凝らしてきました。ここに今までの食事療法展でとりあげてきた内容をご紹介します。



写真1 外来棟での食事療法展（第1回）

記念すべき第1回目は、平成10年10月19日から23日までの期間で開催されました（写真1）。場所は、外来棟1階フロアの待合室に隣接しての開催でした。この時期に決めたのは、例年東京都糖尿病協会が開催する糖尿病週間の行事に合わせて、病院栄養士として患者様の療養の一助に何かできることをしたいとのことからでした。従って、第1回は『糖尿病の食事療法展』と銘打ちスタートしたわけです。来場者数は開催5日間で3,527名を数え、当時から食事療法に対する関心の高さが伺えます。内容は、糖尿病と食事の基本についてのパネル展示や病院食（1400kcal 食）の実物、治療用特殊食品、宅配食などの展示に加え、体重計測コーナーや料理中の塩分とエネルギー量の数あてクイズなどでした。翌年の第2回では、内容こそ前年の踏襲となりましたが『糖尿病 招くも 防ぐも あなた次第』というキャッチフレーズを設定し、開催側としてのより強いメッセージを打ち出しました。第3回もテーマを設け、以降恒例となっています（図1）。第4回目からは、平成13年9月の新入院棟への移転に伴ってA棟1階レセ

〈食事療法展 過去のテーマ〉	
第2回	糖尿病 招くも防ぐもあなた次第
第3回	正しく食べよう3度の食事
第4回	あなたの食事は健康ですか？
第5回	知っておこう体が喜ぶ栄養のはなし
第6回	ちょっとした工夫でより健康に
第7回	切っても切れない食事と健康 ～健康情報とかしこく付き合おう！～
第8回	はじめませんか？食事改革
第9回	続けよう！健康のための食事と運動
第10回	さあチャンス！今こそ見直し食習慣

図1



写真2 入院棟での食事療法展（第6回）



図2

プションルームでの開催となりました（写真2）。このことによって、外来患者さんの数は減少しましたが、入院患者さんや見舞い客などが多くなり新たな展開となりました（図2）。これに合わせて、血糖測定の実験コーナーを設けるなど、内容も一歩踏み込んだものとなっています。さらにこの回から、他の疾患も取り上げて欲しいとの要望により、広く生活習慣病について扱うこととし、『糖尿病の・・・』が外れ、現在の『食事療法展』とのタイトルが定着し



写真3 展示の一部 (第7回)

ました。第5回では、病院内で開催することの意義を再考し、病院の広報と不特定多数の来場者に対する公衆栄養の側面とを併せ持つとの観点から院内放送や区報、他情報誌などへのアナウンスを積極的に進めました。続いて第6回では、体験コーナーに体脂肪測定メニューを加え、さらにビデオ放送やパソコンソフトの使用による自己学習コーナーを設置しました。第7回では、体脂肪率と血圧測定を加え、肥満への警鐘を目的としたお菓子と清涼飲料、アルコール飲料のエネルギー表示に力を入れ(写真3)、第8回では、嗜好品類の品数をさらに増やして来場者の興味を引

きました。また、栄養士と各メディカルスタッフによる栄養ミニ講習会にチャレンジし、見て、聞いて、体験するの三拍子で来場者が得る情報を確かなものにする試みを始めました。昨年の第9回では、いち早くメタボリック症候群の情報提供をし、今年第10回目の食事療法展では『さあチャンス！今こそ見直し食習慣』とのキャッチフレーズのもとで、ミニ栄養相談コーナーを設けて病院栄養士のもつ専門的な知識を一般に提供し、さらなる生活習慣是正に向けた正しい情報の発信に取り組みました。

十年一昔といいますが、この間、毎年継続できたのは医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士の皆様に各場面で応援いただいたことが大きな力となっています。ここに改めて関係各位のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

以上、食事療法展の10年を振り返り、栄養管理室の意図を少しでもお伝えすることができましたなら、当室の喜びであり、今後に向かっての励みとなります。これからもご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

クリスマスのイルミネーション点灯について

昨年に引き続き、本年も11月9日(金)～12月25日(火)までの間、入院棟A1階テラスに、財団法人好仁会、カワナ食堂、食堂三四郎、理髪リ・リーフ、ツーリストサービスの協賛によりクリスマスのイルミネーション

が点灯された。点灯に先だち11月9日(金)17:30から点灯式が行われ、武谷雄二病院長から点灯の挨拶が述べられ、服部雄幸総務課長のカウントダウンの合図により入院患者様も参加されクリスマスのイルミネーションが点灯された。イルミネーションは、期間中16:00～21:00まで点灯され、院内に心温まるクリスマスの彩りを添えている。



カウントダウンの合図によりイルミネーション点灯



色鮮やかなクリスマス・イルミネーションの彩り

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業ホームページの開設について

<創立150周年記念事業事務局からのお知らせ>

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業に関しまして温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

平成19年10月より「東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業ホームページ」を立ち上げましたので、お知らせ致します。

ホームページでは、記念式典のご案内など創立150周年記念事業にかかる情報を掲載して、その充実を心掛けて参りますので、皆様からのより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ホームページのURLは以下の通りです。

また、今回新しく「寄附手続きのご案内」（寄附申込書、郵便払込用紙を含む。）を作成しましたので、必要の方は創立150周年記念事業事務局までご連絡をお願い申し上げます。

○東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業ホームページ

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/150pr/index.html>

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業事務局

TEL 03-5800-9148 (直) ※

03-3815-5411 (代表) 内線32388

(※直通の電話番号が変わりましたので、ご注意願います。)

Eメール souritsu150@adm.h.u-tokyo.ac.jp

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業



寄附の申込み

「東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業」によせて

東京大学医学部及び医学部附属病院は、平成20年(2008年)に創立150周年を迎えます。昭和33年(1958年)5月、東京大学医学部100周年記念式典が執り行われ、記念事業として医学図書館を建設し、お玉ヶ池種痘所跡を示す記念碑も設置しました。その後の50年間、わが国は社会制度から科学技術に至るまで急速な発展を遂げてきました。東京大学医学部及び医学部附属病院もこれらの社会情勢の影響を受けるとともに自律的な志向により大きく変化し、平成16年(2004年)からは国立大学法人として運営されるなど、まったく新しい道を進んでおります。しかしながら、東京大学医学部及び医学部附属病院が果たすべき役割は変わるものではありません。

平成11年(1999年)の鉄門倶楽部創立100周年記念事業においては、皆様から多くのご寄付をいただきました。このときは医学部教育研究棟及び病院の入院棟Aに譲渡を建設いたしました。これらの施設は、現在、医学部だけでなく学内外の多くの方々にもあわせて活発に利用されております。今回の東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業では、さらに教育、研究、診療のための環境整備を行うとともに、「社会貢献」もテーマとした事業を企画しております。また、これらの事業は単なる記念ではなく将来にわたって継続性のある内容となっております。

1. 医学教育環境の整備と医学研究者・医師の養成—医学・医療を担う若手への経済的支援
2. 国際性の追求—留学生・研究者の支援、鉄門記念講演会の開催
3. 社会に関わった医学・医療の展開—医学・医療の情報交換と情報公開
4. 医療をめぐる課題解決のために—医療提供者と社会との新たな関係の構築
5. 医学研究の展開—トランスレーショナルリサーチの構築

私どもは、東京大学医学部及び医学部附属病院のこれまでの経緯と実績を未来に向けて更に発展させ、広く社会に貢献するために本記念事業に賛同し、世話人会を設置いたしました。皆さまにおかれましては、東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成19年1月吉日

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念事業世話人

代表: 織田敏文

副代表: 伊藤正実、杉村隆、森田、矢崎義雄

世話人: 菅記慎一、石川浩一、石川隆博、伊沢保雄、菅弘、渡藤晋、大原毅、尾形俊郎、関野成光、増澤忠生、金澤一郎、橋下重彦、川名尚、桐野高剛、栗田廣、黒川高秀、小林亮郎、近藤芳夫、末松弘行、杉本信明、藤田克幸、高久史郎、寺下謙三、中根俊夫、本田英輔、前川和彦、松下正明、宮本昭正、武藤敏一郎、森安之、森岡忠彦、山中肇、山村秀夫(五十音順)



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO
東京大学医学部・
医学部附属病院
創立150周年記念事業

トップ

概要

事業概要

寄附の申込み

質問での手続きを希望される方

お問い合わせ

出来事

平成19年9月～平成19年10月

9月4日(火) 大震災対応への一斉防災訓練実施

「大震災対応への一斉防災訓練」が入院棟A、B、中央診療棟2等において約400名の教職員と約100名の医学部学生の参加により行われた。
 時間：13：30～16：00
 訓練内容：病棟全フロア被災状況チェック＆報告・避難訓練（一部病棟）
 病棟ミニトリアージ
 被災患者受入（トリアージ）訓練
 入院棟A消防車によるはしご避難・放水訓練・吹き出し訓練
 （労働安全衛生管理室）



9月25日(火) ミニコンサート

時間：16：45～17：30
 場所：外来棟1階エントランスホール
 演奏：重廣 誠（6弦ベース）
 岩城淳子（ピアノ・ヴォーカル）
 （医療サービス推進委員会）



9月27日(木)

22世紀医療センター公開セミナーシリーズ！
 「健康・医療分野における情報データベース」
 時間：16：00～17：00
 場所：中央診療棟2（7階大会議室）
 内容：
 座長 林 同文（健康医科学創造講座）

講演1「健康・医療分野のデータの geography」
 奥 真也（健診情報学講座）

講演2「循環器疾患の臨床データベース開発」
 興梠貴英（健康医科学創造講座）

講演3「特定健診・特定保健指導データの活用」
 古井祐司（健診情報学講座）

10月5日(金) 第15回東大研究倫理セミナー

時間：
 第Ⅰ部（更新受講者対象）：17：00-17：30
 第Ⅱ部（新規受講者必修；更新受講者任意）：17：40-18：10

第Ⅲ部（新規受講者対象）：18：15-19：30
 場所：医学部鉄門記念講堂（教育研究棟14階）
 司会：北村 聖（病院総合研修センター長）
 赤林 朗（医学系研究科・医学部倫理委員会委員長）

第Ⅰ部 更新受講者講習会
 荒川義弘（病院臨床試験部副部長）
 第Ⅱ部 基調講演（新規受講者は必修、更新受講者は任意）
 「専門職の倫理 ―課題と展望―」
 加藤尚武（医学系研究科生命・医療倫理人材養成ユニット特任教授）

第Ⅲ部 新規受講者講習会
 1 各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制
 赤林 朗（医学系研究科・医学部倫理委員会委員長）

2 研究倫理審査を受けるための手続き
 徳永勝士（ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員長）

3 臨床研究における個人情報管理
 大江和彦（ヒトゲノム・遺伝子解析研究個人情報管理者、病院医療情報管理委員会委員長）

4 病院治験審査委員会への申請と臨床試験部の支援
 長瀬隆英（病院治験審査委員会委員長）

まとめ 長瀬隆英
 主催：医学系研究科・医学部倫理委員会、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会、病院治験審査委員会、病院臨床試験部、病院企画情報運営部、病院総合研修センター

10月11日(木) 第2回感染制御セミナー

時間：18：00～19：30
 場所：臨床講堂
 テーマ：「血流感染とその対策 ―今すべきことは何か」

内容：
 ・当院における血流感染の状況と問題点
 森屋先生（感染制御部/講師）
 ・当院における菌検出状況と抗菌薬選択
 畠山先生（感染制御部/助教）
 ・血流対策ガイドラインについて
 内田副看護部長（看護部/感染管理認定看護師）
 （感染対策センター）

10月13日(土)

東京大学医学部附属病院22世紀医療センター「がん患者さんのための公開講座&施設見学会」

時間：14：00～17：00
 場所：中央診療棟2（7階大会議室）
 対象：がん患者さん あるいは そのご家族
 内容：
 セミナー（1）『がんと免疫、免疫細胞治療について』

講師：垣見和宏（東京大学医学部附属病院22世紀医療センター 客員准教授）

施設見学会
 セミナー（2）『先端医療開発の現状』
 ・2-1 WOWエマルジョンと中性子捕捉療法

講師：柳衛宏宣（東京大学医学部附属病院 医工連携部 特任准教授）
 ・2-2 免疫細胞治療とトランスレーショナルリサーチ

講師：垣見和宏（東京大学医学部附属病院22世紀医療センター 客員准教授）

4) Q & A

主催：特定非営利活動法人 がん患者団体支援機構
 東京大学医学部附属病院22世紀医療センター 免疫細胞治療講座
 後援：東京大学医学部附属病院22世紀医療センター

10月16日(火)

リスクマネジメント研修（講演会）

時間：18：00～19：30
 場所：臨床講堂
 講師：福井次矢氏（聖路加国際病院 院長）
 演題：『医療の質と安全性への対応』（医療安全対策センター）

10月18日(木)

22世紀医療センター公開セミナーシリーズ②「医療経営・医療政策の新展開」

時間：16：00～17：00
 場所：管理・研究棟2階第一会議室
 内容：
 司会 康永秀生（医療経営政策学講座）

講演1：「患者の利便性を高めるための物流サービスの開発」
 石川友保（ホスピタル・ロジスティクス講座）

講演2：「DPCデータを用いた病院評価」
 橋本大樹（医療経営政策学講座）

10月21日(日) 長岡市特別感謝状贈呈式

長岡リリックホールにて、中越地震3周年復興記念フォーラムが開催され、新潟県中越震災に係る長岡市特別感謝状が長岡市 森 民夫市長から贈呈された。



10月22日(月)～26日(金)

第10回食事療法展

時間：9：00～17：00
 場所：入院棟A1階レセプションルーム
 内容：秋の味覚、外食、飲み物などの展示
 および体験コーナー（腹囲・体脂肪・血糖値・血圧）の設置とミニ栄養相談やテーマ別講習会を毎日開催した。来場者は延べ2,204名であった。

主催：栄養管理室
 協賛：（社）東京大学医師会



東大病院の四季

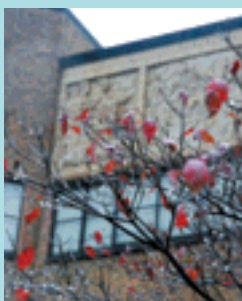
秋の彩り

秋の始まりと共に管理・研究棟正面玄関横の木斛（もっこく）の木が鮮やかな紅色の果実を付ける。ツバキ科の常緑高木で葉は厚くてつやがあり、狭い卵形である。夏に小さな白い五弁花を下向きにつける。



木斛

木斛は、生育はあまり早くはないが、樹形が整っており庭木の中の王者といわれている。



花水木

また、雨に濡れた花水木（はなみずき）の残り葉が秋の深まりを感じさせる。

さらに秋の彩りとして、入院棟Aの高層階からは、上野公園の「五重塔」や「六角堂」を背景に見事に紅葉した色鮮やかな錦秋のパノラマを望むことができる。



五重塔



不忍池と六角堂

10月30日（火）

第30回ミニコンサート

時 間：16：45～18：00

場 所：外来棟1階エントランスホール

演 奏：鉄門室内楽の会

（医療サービス推進委員会）



10月30日（火）

院外接遇体験研修「椿山荘に学ぶ和のマナー」

時 間：19：00～21：00

場 所：椿山荘「錦水」

内 容：教職員74名の参加申込みがあり、椿山荘におけるホスピタリティを体験した。

（接遇向上センター、総合研修センター）

編集協力：加 我 君 孝

発 行 平成19年11月30日

発 行 人 病院長 武 谷 雄 二

発 行 所 東京大学医学部附属病院

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

☎ 3815-5411

事 務 担 当 総務課総務企画チーム庶務担当

東大病院広報企画部

連絡先 ☎ 5800-9769

E-mail: SyomuAll@adm.h.u-tokyo.ac.jp

印 刷 所 株式会社 学 術 社

■前号の「東大病院から世界へ発信」の記事の著者は次の通りです。

眼科学教室 新家 眞 教授

整形外科科学教室 高取吉雄 准教授

産科婦人科学教室 上妻志郎 准教授

東大病院だよりは、東大病院のホームページから見るができます。 <http://www.h.u-tokyo.ac.jp/outline/letter.htm>

また東大病院だよりは、年4回発行し、外来診療棟1階ロビー、入院棟A1階ロビーのパンフレットスタンドから自由にお持ちいただけるよう情報提供を進めておりますが、残部には限りのあることをご了承下さい。